



地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん 北信地区経済動向



「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけします。

景況調査レポート



長野市 しんきん上空 高層ビル・マンション群

長野信金本店の上空から北西の方角を一望すれば、眼下には高層ビル・高層マンション群が広がっています。最近、長野市中心部では高層マンションの建設が相次いでいます。中心市街地に位置する、これらの高層マンションは高価格ですが、何よりも生活に便利さを追求する、シニア層に人気とのことです。

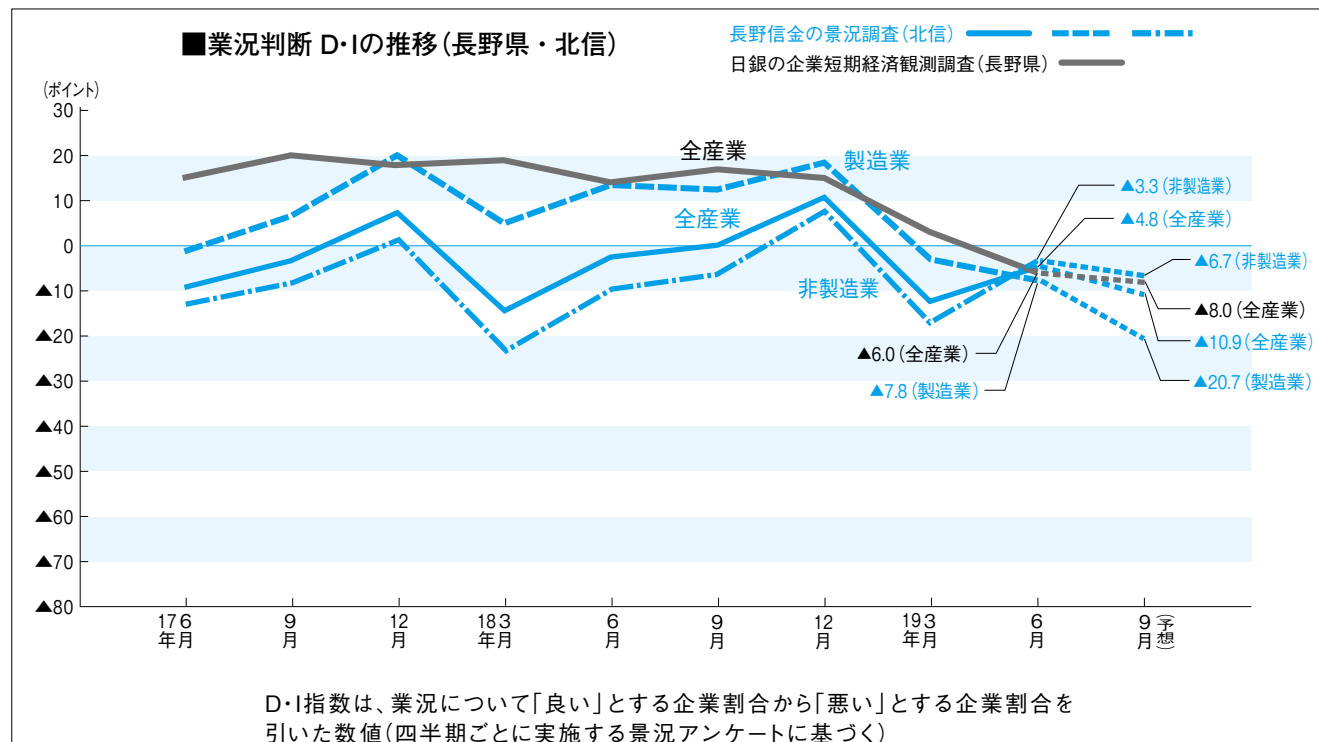
- 長野しんきん 景況調査レポート ……2
- 企業アンケート 人手不足 ① ……6
- 生活者アンケート 就業意識 ① ……9
- 北信濃 江戸時代の風景 (59) 城山 ……10

「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫について](#)



景況調査レポート 概況 (第176回景況アンケート調査)

◆長野県北信地区◆2019年4～6月期…景気の現状 ◇2019年7～9月期…景気の見通し



全産業▲13 → ▲5 製造業は悪化、非製造業は改善

2019年4～6月期の業況判断D・Iは、全産業で8ポイント改善して▲5となりました。製造業は5ポイント悪化の▲8、非製造業は14ポイント改善の▲3です。

2019年7～9月期の全産業の業況判断D・I(予想)は、6ポイント悪化の▲11となりました。

◆北信地区の4月～6月期の業況判断D・I

	前期	今期	来期(予想)
全産業	▲13	→ ▲5 (8ポイント改善)	→ ▲11
製造業	▲3	→ ▲8 (5ポイント悪化)	→ ▲21
非製造業	▲17	→ ▲3 (14ポイント改善)	→ ▲7

非製造業▲17 → ▲3 3業種ともに改善

非製造業の業種別業況判断D・Iは、建設業が+2(前期比+7ポイント)、卸小売業が▲11(同+16ポイント)、

◆非製造業の業種別業況判断D・I

	前期	今期	来期(予想)
非製造業	▲17	→ ▲3 (14ポイント改善)	→ ▲7
建設業	▲5	→ +2 (7ポイント改善)	→ ±0
卸小売業	▲27	→ ▲11 (16ポイント改善)	→ ▲14
サービス業	▲24	→ ▲2 (22ポイント改善)	→ ▲9

サービス業が▲2(同+22ポイント)となり、3業種ともに改善しています。

◆売上高D・Iと収益判断D・I

	売上高D・I(「増加」-「減少」)		収益判断D・I(「増益」-「減益」)	
	前期	今期	前期	今期
全産業	▲25	→ ▲5 (改善)	▲27	→ ▲8 (改善)
製造業	▲33	→ ▲3 (改善)	▲28	→ ▲6 (改善)
非製造業	▲21	→ ▲6 (改善)	▲26	→ ▲9 (改善)

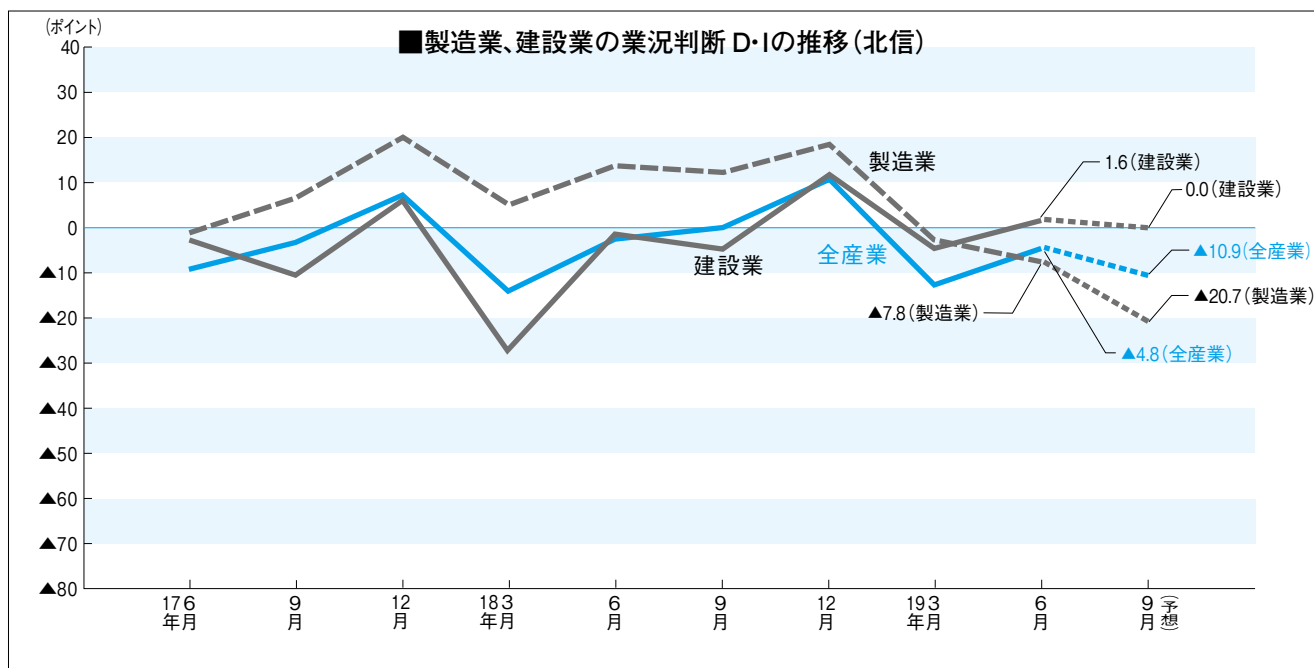
●北信地区の業況判断D・Iの推移

	2018年9月	12月	2019年3月	6月	9月(予想)
全産業	±0.0	+10.8	▲12.8	▲4.8	▲10.9
製造業	+12.3	+18.5	▲3.0	▲7.8	▲20.7
非製造業	▲6.1	+7.6	▲17.2	▲3.3	▲6.7

[調査要領]

●調査実施……2019年6月
●調査対象企業(回収)
製造業………65社
建設業………61社
卸小売業………44社
サービス業………40社

合計………210社
●回収率………79.5%
●従業員規模
30人未満………74.8%
●分析………D・I判断指数
を中心に分析



製造業の景況

5割悪化して▲8に、来期も悪化の予想

製造業の4～6月期の業況判断D・Iは▲8で、前期(▲3)に比べ5割悪化となりました。7～9月期は今期より13割悪化の▲21の予想です。

	(前期)	1～3月期	▲3
◆業況判断D・I	(今期)	4～6月期	▲8
	(来期)	7～9月期	▲21(予想)

◇業種別業況判断D・I

改善	食料品・一般機械
悪化	金属加工・電気機械・自動車部品・精密機械

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲6(22割改善)

「増益」割合	前期 13% → 20% (7割増加)
「減益」割合	前期 41% → 27% (14割減少)

◆現在の採算状況…改善

「利益確保」	前期 47% → 49% (2割増加)
「収支トントン」	前期 41% → 42% (1割増加)
「赤字」	前期 12% → 9% (3割減少)

企業からのコメント

- ☆★10月の消費税増税を前倒しするかたちで、値上げの実施を始めている。(食料品)
- ★米中貿易摩擦の先行き不透明感と、働き方改革等の産業活動抑制が生産性を阻害している。(精密機械)
- ★主原材料費の値上げを製品価格へ転嫁することが困難で、採算が悪化している。(段ボール印判・木型)
- ★金属製品・電子部品とも生産が減少し、受注見通しも低調で年内は不透明。(金属製品)

建設業の景況

7割改善して+2に、来期は悪化の予想

建設業の4～6月期の業況判断D・Iは+2で、前回(▲5)に比べ7割改善しています。7～9月期は今期より2割悪化の±0の予想です。

	(前期)	1～3月期	▲5
◆業況判断D・I	(今期)	4～6月期	+2
	(来期)	7～9月期	±0(予想)

◇業種別	総合建設	前期 ±0 → +11(11割改善)
	土木工事	前期 ▲18 → ▲15(3割改善)
	建築	前期 ±0 → +10(10割改善)
	各種設備	前期 +18 → ±0(18割悪化)

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲3(16割改善)

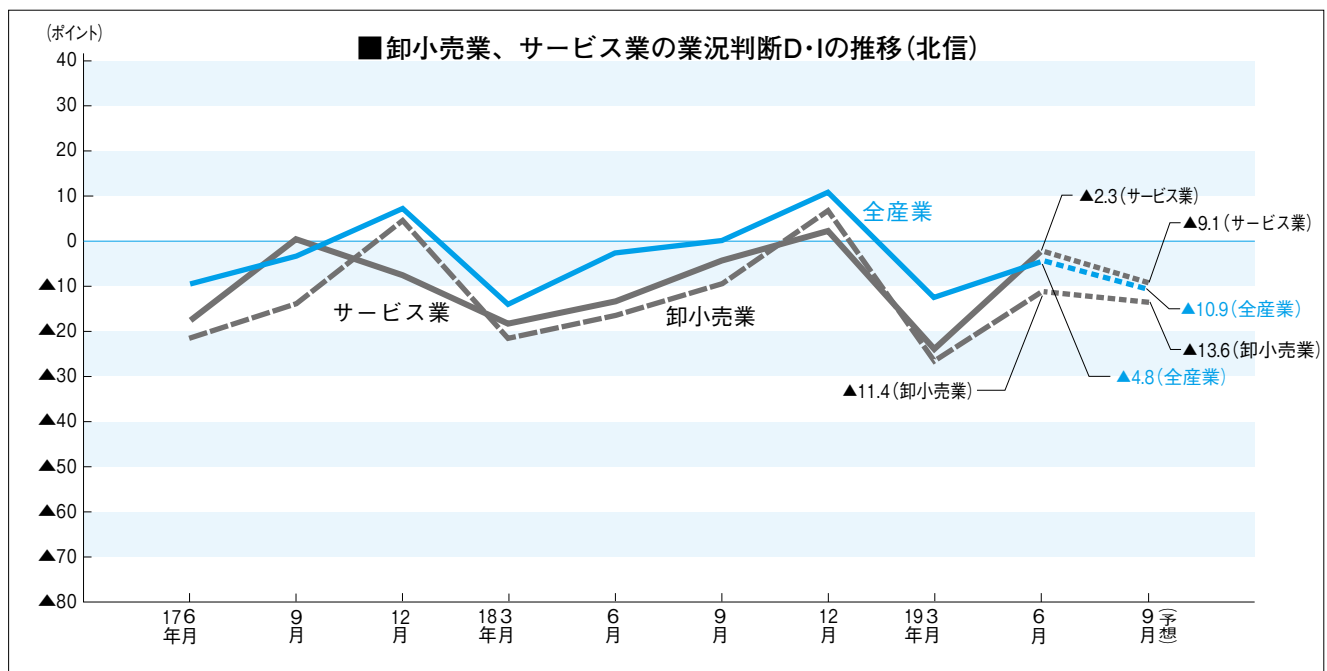
「増益」割合	前期 10% → 18% (8割増加)
「減益」割合	前期 30% → 22% (8割減少)

◆現在の採算状況…横ばい

「利益確保」	前期 48% → 43% (5割減少)
「収支トントン」	前期 44% → 55% (11割増加)
「赤字」	前期 8% → 2% (6割減少)

企業からのコメント

- ★公共事業の発注は6月後半からで全体に不景気な様相。建築は投資意欲低調、昨年より情報が少ない。
- ★中央や大手企業は増収・増益のようだが、地方の中小企業まではパイの配分なく、不景気そのもの。
- ★☆新築案件が減っているが、人材確保・育成、働き方改革等で生産性を上げたい。(以上総合建設)



卸小売業の景況

業況は16%改善の▲11、来期は悪化の予想

卸小売業の4～6月期の業況判断D・Iは▲11で、前回(▲27)に比べ16%改善しました。7～9月期の業況判断D・Iは2%悪化の▲14の予想です。

◆業況判断D・I	(前期)	1～3月期	▲27
	(今期)	4～6月期	▲11
	(来期)	7～9月期	▲14(予想)

◇業種別	卸売業	前期	▲40 → ▲13 (27%改善)
	小売業	前期	▲16 → ▲10 (6%改善)

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲19 (14%改善)

「増益」割合	前期13% → 12% (1%減少)
「減益」割合	前期46% → 30% (16%減少)

◆現在の採算状況…横ばい

「利益確保」	前期40% → 30% (10%減少)
「収支トントン」	前期44% → 51% (7%増加)
「赤字」	前期16% → 19% (3%増加)

企業からのコメント

- ★頭痛の種は消費税の手間による大幅効率ダウン。8・10%となぜ差をつけるのか。(土産品・飲食)
- ☆セルフレジなど人手不足をカバーする設備の導入が卸小売業に進んでいる。(生鮮食品スーパー)
- ☆★扱っている農産物は、気候に大きく相場が左右されるため、予想できないリスクが高い。(果物卸売)
- ★先の読めない状況が続く感じがしてならない。(健康食品卸売)

サービス業の景況

業況は22%改善の▲2、来期は悪化の予想

サービス業全体の4～6月期の業況判断D・Iは▲2で前回(▲24)と比べ22%改善しました。業種別では、運輸だけが横ばい、他は改善しています。

7～9月期の業況判断D・I(予想)は7%悪化の▲9となっています。

◆業況判断D・I	(前期)	1～3月期	▲24
	(今期)	4～6月期	▲2
	(来期)	7～9月期	▲9(予想)

◇業種別業況判断D・I

サ ー ビ ス	前 期 ▲14 → ▲11 (3割改善)
輸 送	前 期 ▲33 → ▲22 (11割改善)
タ ク シ ー	前 期 ▲67 → ▲33 (33割改善)
運 輸	前 期 ▲17 → ▲17 (横 ば い)
外 食	前 期 ▲45 → ± 0 (45割改善)
観 光	前 期 ▲56 → ▲22 (33割改善)
不 動 産	前 期 +17 → +44 (27割改善)

企業からのコメント

- ☆「アプリ配車」や「QR決済」の導入に向けて、積極的な検討を始めている。(タクシー業)
- ★貨物数量の減少、燃料コストの負担増によって、利益が減少してきている。(一般貨物)
- ☆「電子決算」の導入について、検討している。(外食チェーン)
- ☆★「キャッシュレス決済」による入金は業界で15～30%。一時的な立て替えも出てくる。(和風旅館)

雇用情勢 4～6月期

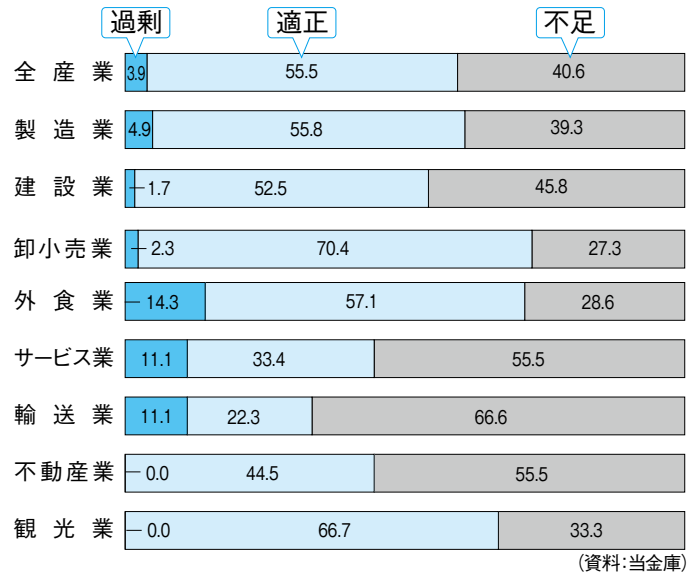
輸送・外食・製造が改善、観光・不動産は悪化

従業員の過不足感（「過剰」－「不足」）は、全産業で▲37となり、前回（▲39）より2ポイント改善しています。

雇用情勢（「過剰」－「不足」）

業 種	前期（1～3月）	今期（4～6月）
全産業	▲39.0	▲36.7
製 造 業	▲41.2	▲34.4
建 設 業	▲39.4	▲44.1
卸小売業	▲25.6	▲25.0
外 食 業	▲33.3	▲14.3
サービス業	▲42.8	▲44.4
輸 送 業	▲88.9	▲55.5
不動産業	▲50.0	▲55.5
観 光 業	▲22.2	▲33.3

従業員の過不足感（％）



資金繰り 4～6月期

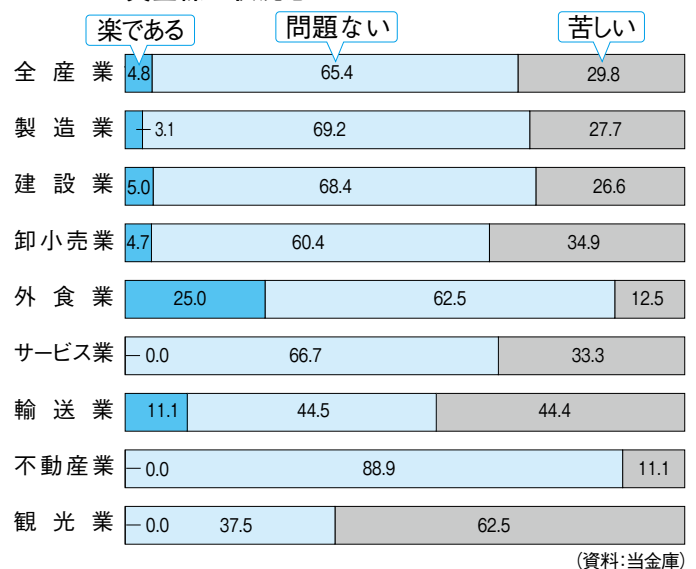
外食・輸送が改善、観光・サービス・製造は悪化

資金繰り状況判断（「楽である」－「苦しい」）は、全産業で▲25となり、前回（▲20）より5ポイント悪化しています。

資金繰り（「楽である」－「苦しい」）

業 種	前期（1～3月）	今期（4～6月）	来期（7～9月）
全産業	▲19.9	▲25.0	▲23.3
製 造 業	▲17.4	▲24.6	▲28.0
建 設 業	▲22.9	▲21.6	▲19.7
卸小売業	▲24.5	▲30.2	▲25.6
外 食 業	▲11.1	+12.5	▲12.5
サービス業	±0	▲33.3	▲22.2
輸 送 業	▲44.4	▲33.3	▲25.0
不動産業	▲8.4	▲11.1	▲11.1
観 光 業	▲11.1	▲62.5	▲25.0

資金繰り状況感（％）



販売価格動向 4～6月期

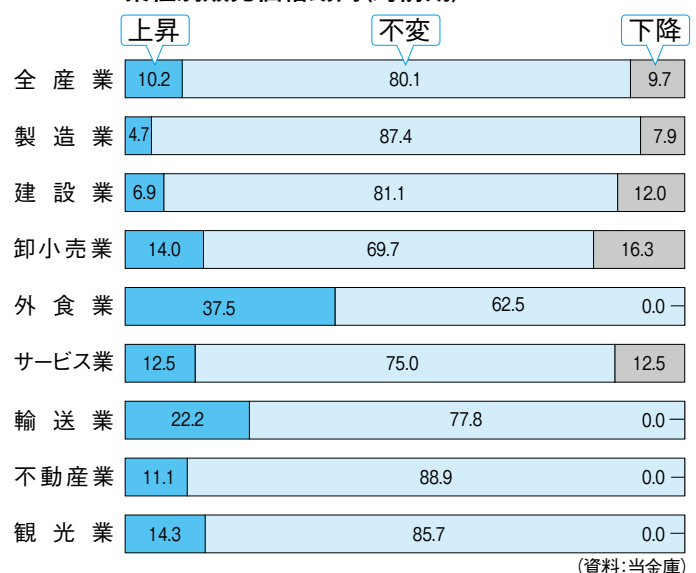
外食・観光・輸送・不動産が上昇、建設・卸小売は下降

販売価格動向（「上昇」－「下降」）は、全産業で+0.5となり、前回（▲0.4）に比べ1ポイント改善しています。

販売価格動向（「上昇」－「下降」）

業 種	前期（1～3月）	今期（4～6月）	来期（7～9月）
全産業	▲0.4	+0.5	▲1.0
製 造 業	▲2.9	▲3.2	+1.6
建 設 業	+1.7	▲5.1	▲3.4
卸小売業	+4.5	▲2.3	▲9.3
外 食 業	±0	+37.5	±0
サービス業	±0	±0	±0
輸 送 業	±0	+22.2	+25.0
不動産業	▲8.3	+11.1	±0
観 光 業	▲11.1	+14.3	+12.5

業種別販売価格動向(対前期)（％）



「人手不足が深刻」9% 「やや人手不足」42% 「適正状態」45% 「過剰」2%

従業員の過不足状況 「人手不足が深刻」は1割弱ですが、「やや人手不足」は4割強にのびります。

「人手不足」の影響 「生産・売上等の減少」「需要増への対応困難、機会損失」「残業時間の増加」「人件費・外注費等のコスト増大」の上位4項目は3割台、5・6位の「工期・納期の遅れ」、「利益減少」は2割台となりました。

従業員の過不足状況

●「人手不足」

30人未満**48%** 30人以上**59%**

●「過不足なく適正状態」

30人未満**48%** 30人以上**35%**

「現在、従業員の過不足状況はどうか」を聞きました。

「人手不足が深刻」と答えた企業は9%、「やや人手不足」は42%で、合わせて5割の企業が「人手不

足」と答えています。「過不足なく適正状態」は45%、「過剰である」は2%でした。

従業員規模で比べると、30人未満は「人手不足が深刻」（8%）と「やや人手不足」（41%）を合わせると48%、30人以上は同様に13%、46%、59%となり、11%差がつかしました。

「過不足なく適正状態」は、30人未満48%に対して、30人以上は35%と13%低くなっています。

また「過剰である」も、30人未満1%に対して、30人以上は6%と5%高くなっています。

業種別

●「人手不足」

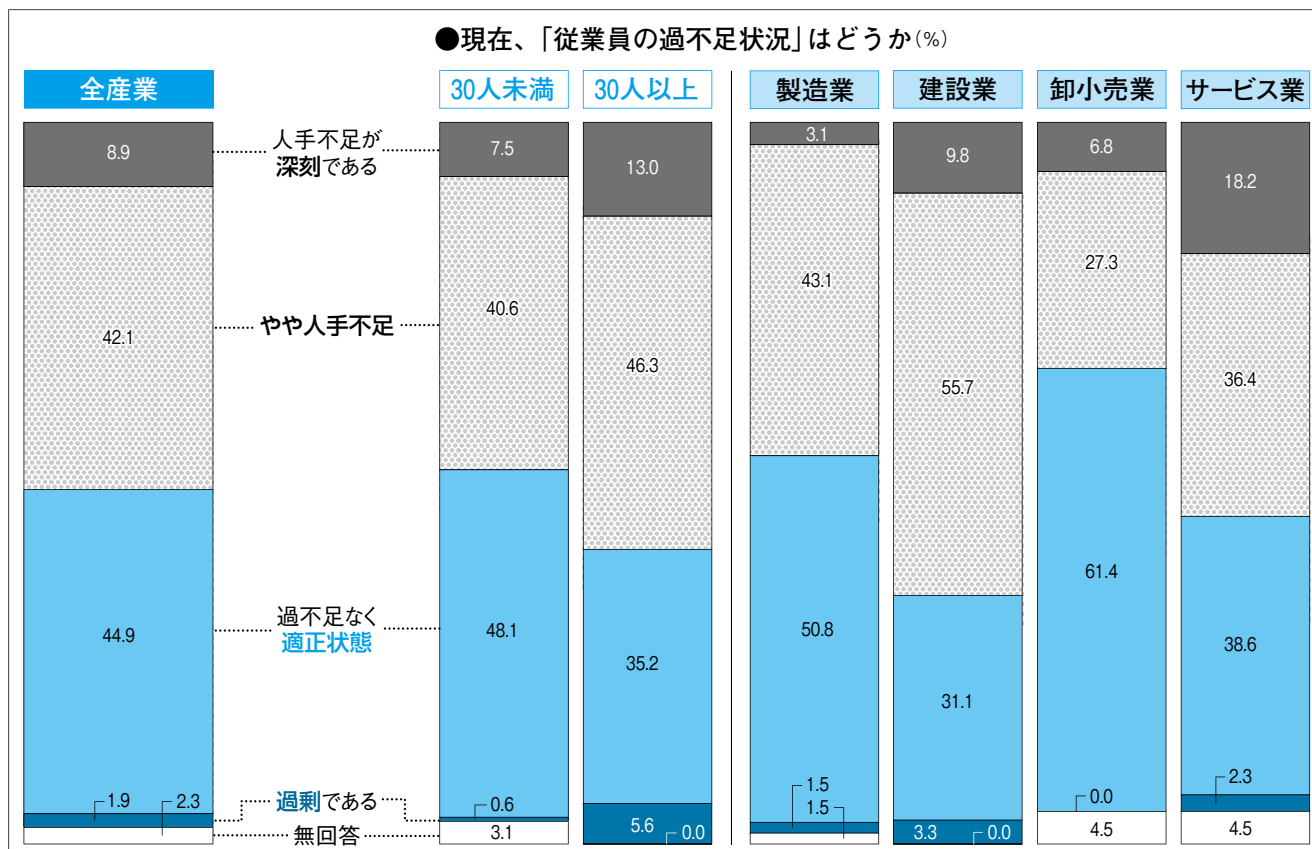
卸小売……**34%**

製造………**46%**

サービス…**55%**

建設………**66%**

製造業 「人手不足」は46%、「適正状態」は51%



となりました。「人手不足が深刻である」は3%です。

建設業 「人手不足」は66%となり、他業種に比べ最も高くなりました。「適正状態」は31%となり、他業種に比べ最も低くなりました。「やや人手不足」(56%)は他業種に比べ最も高くなっています。

卸小売業 「人手不足」は34%で、他業種に比べ最も低くなりました。「適正状態」は61%となり、他業種に比べ最も高くなりました。「過剰である」(0%)は他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業 「人手不足」は55%、「適正状態」は39%となりました。「人手不足が深刻である」(18%)は他業種に比べ最も高くなっています。

「人手不足」の影響

「生産・売上等の減少」……………39%
「需要増への対応困難・機会損失」37%
「残業時間の増加」……………31%
「人件費・外注費等のコスト増大」30%

前問で「人手不足」と答えた企業に、「人手不足による影響は何か」を聞きました。

1～4位、「生産・売上等の減少」(39%)、「需要

増への対応困難・機会損失」(37%)、「残業時間の増加」(31%)、「人件費・外注費等のコスト増大」(30%)は30%台で、「工期・納期の遅れ」(25%)、「利益減少」(20%)の5・6位は20%台となりました。ほかに「取引先・顧客離れ」(6%)、「支障なし」(2%)となっています。

従業員規模で比べると、30人未満は「工期・納期の遅れ」(30%)、が30人以上より17%高く、30人以上は、「残業時間の増加」(44%)が18%、「人件費・外注費等のコスト増大」(34%)が6%、30人未満より高くなっています。

業種別

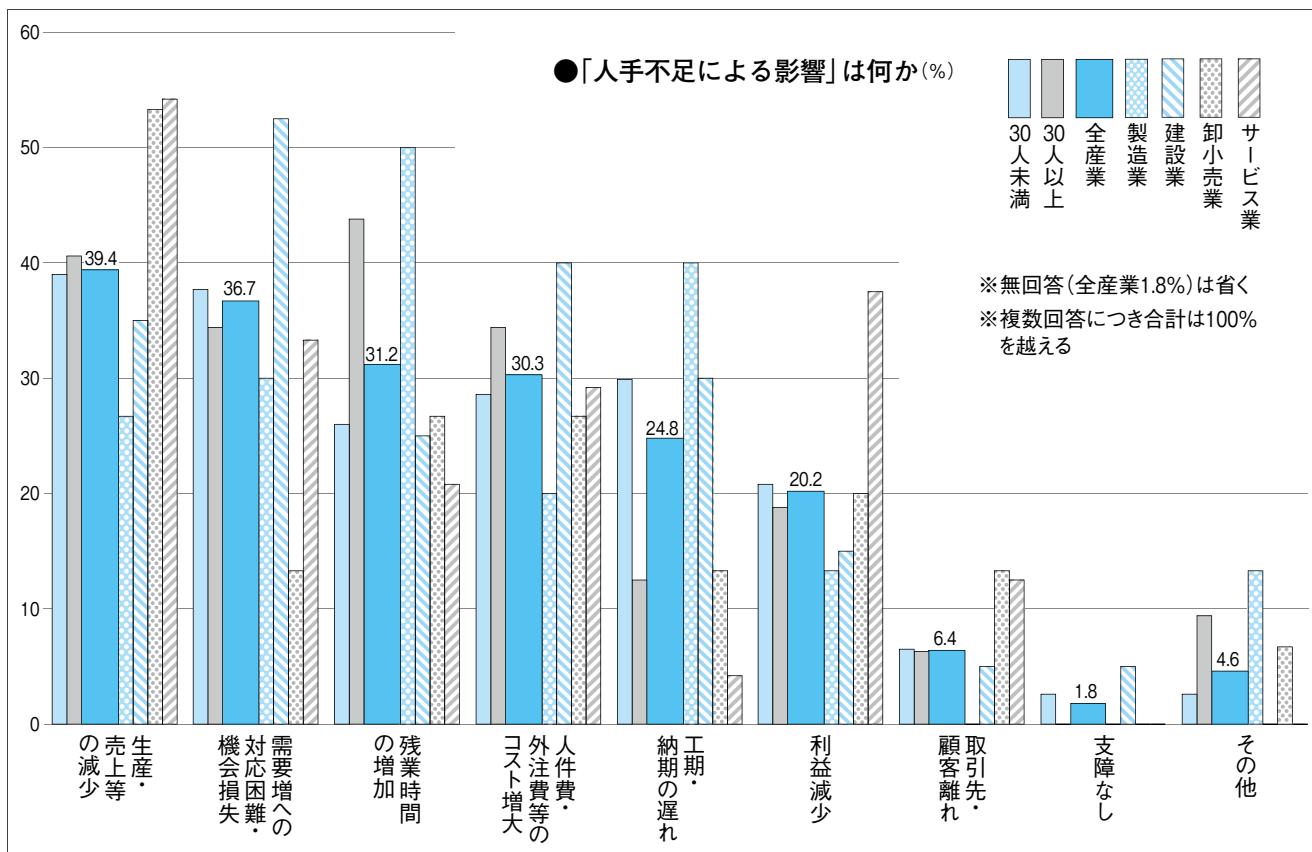
サービス「生産・売上等の減少」54%

建設「需要増への対応困難・機会損失」53%

製造「残業時間の増加」50%

卸小売「生産・売上等の減少」50%

製造業 「残業時間の増加」(50%)、「工期・納期の遅れ」(40%)、「その他」(13%)が他業種に比べ最も高くなっています。他方「生産・売上等の減少」(27%)、「人件費・外注費等のコスト増大」(20%)、「利益減少」(13%)、「取引先・顧客離れ」(0%)が他業種に比べ最も低くなっています。



建設業 「需要増への対応困難・機会損失」(53%)、「人件費・外注費等のコスト増大」(40%)、「支障なし」(5%)は他業種に比べ最も高くなりました。

卸小売業 「取引先・顧客離れ」(13%)が他業種に比べ最も高くなっています。他方「需要増への対応困難・機会損失」(13%)が他業種に比べ最も低くなりました。

サービス業 「生産・売上等の減少」(54%)、「利益減少」(38%)は他業種に比べ最も高くなりました。他方「残業時間の増加」(21%)、「工期・納期の遅

れ」(4%)は他業種に比べ最も低くなっています。

◇次号は「求める人材」と

「人手不足の対応策」を予定

[調査要領]

実施期日：2019年6月上旬～中旬

実施企業：第176回景況アンケート調査に併記

調査企業：回収214社（製造業65社、建設業61社、
卸小売業44社、サービス業44社）

うち従業員30人未満160社（74.8%）

「人手不足」に関する企業からのコメント

製造業

◇会社を働きやすい環境にするしかない。（そば）

◇業務改善による生産性の向上で対応していくしか方策はない。（金属製品）

◇パート労働者の収入の上限が変更となり、出勤日数を増加させることができた。（みそ製造）

◇受注量や仕事の質を維持するためには、更なる効率化を図るとともに、最低限の人材確保が必要になる。（シール・ラベル）

◇定年後の再雇用および女性の採用増加が必要と考える。（段ボール）

◇外国人労働者も検討しているが、リストラなどによる大企業の人員削減が実施されれば、経験者などの雇用が余剰となるのではないかと。中途採用も検討したい。（電子機器）

◇社員の高齢化に伴う雇用延長にも限界。中途採用でつないでいるが、系統立った教育などの長期的な展望による人事計画を立案せねば。（精密機械）

◇労働者を増やすよりも、機械化・自動化を進めるほうが将来的に得策である。（プラスチック製品）

建設業

◇大工などの職人の育成には、見習いしながらも生活費はいるので、発注する企業も関わる必要がある。

◇各種職方の労働者不足があり、「働き方改革」といっても、休日や残業の削減には苦勞している。

◇会社のイメージアップ戦略を考えなければ、人が集まらない。（以上総合建設）

◇人手不足の状況はかなり深刻だが、打つ手がない。

◇時代の流れのなかで、業種による人手不足は仕方がない。（以上土木工事）

◇もう少し余裕のある働き方を考えていけば、高齢者や障害のある人、引きこもりの人が働けるのではないかと思う。（建築）

◇労働集約型企业は、生産性の向上には限度があると思う。外国人労働者の活用、人的M&Aが今後ますます活発になると思う。（内装工事）

卸小売業

◇パートも長時間働きたい人が多いにもかかわらず、税制がそれを認めない。法改正、最低賃金の引き上げも片手落ち。縦割り行政の弊害ではないか、もっと気を遣うべき。（土産小売・そば食堂）

◇学生アルバイトが減少している。学校側からのアルバイト禁止や、学生自身が稼ぎたいという意欲が低いのが現実の問題。（酒類小売）

◇ほんとうに「人手不足」なのか、そもそも疑問です。（自動車部品小売）

サービス業

◇同業者の統合などによって集約し、効率化を図る。タクシーの場合、台数減による運行管理の一本化、本社部門の集約などが考えられる。（タクシー）

◇高齢運転手の雇用も検討しているが、荷下ろしなど職種に制限があって難しい。

◇新卒採用を30年以上続けてきたので、同業他社に比べて従業員の平均年齢が若く、不足感は感じていない。しかし、このところ新卒の採用が難しくなっているのが悩み。（以上一般貨物）

◇多くの会社が技術者不足だろうと思う。中小の同業者同士の合併などにより、互いの得意分野による受注機会の創出、それに技術者不足が解消されるのではないかと。（測量コンサルタント）

●就職する際に重要と考えた条件

「仕事の内容」60% 「勤務地・通勤の便」48% 「勤務時間・休日」35%

◆就職する際に重要と考えた条件

「企業の将来性・安定性」30%

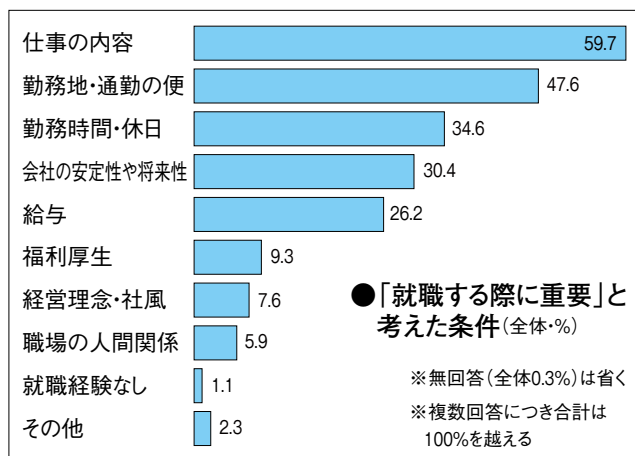
「給与」26% も2ケタに

「『就職する際に重要と考えた条件』は何か」(該当するもの3つ以内)を聞きました。

1位「仕事の内容」(60%)、2位「勤務地・通勤の便」(48%)、3位「勤務時間・休日」(35%)で、「会社の安定性や将来性」(30%)、「給与」(26%)の5位までが2ケタとなりました。

「福利厚生」「経営理念・社風」「職場の人間関係」は1ケタでした。

世代別で見ると、10～20代は「勤務時間・休日」(49%)、「福利厚生」(18%)、「職場の人間関係」(10%)が、30～40代は「仕事の内容」(67%)、「勤務地・通勤の便」(52%)が、50代以上は「給与」(31%)、「会社の安定性や将来性」(37%)、「経営理念・社風」(11%)が他より高率になっています。



男女別で見ると、女性は「勤務時間・休日」(56%)が、男性は「会社の安定性や将来性」(39%)が、他よりかなり高率になっています。

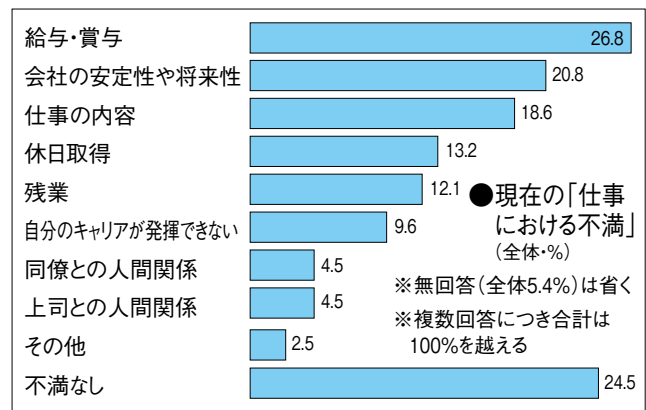
◆現在の仕事における不満

「給与・賞与」27% 「安定性や将来性」21%

「仕事の内容」19% 「不満なし」25%

トップ3は、「給与・賞与」(27%)、「会社の安定性や将来性」(21%)、「仕事の内容」(19%)で、「不満なし」(25%)も高率になりました。

男女別で見ると、女性は「休日の取得」(19%)が、男性は「会社の安定性や将来性」(25%)、「残業」(17%)が、他に比べ高率になっています。



【調査要領】

実施期日：2019年6月上旬～中旬

実施場所：長野信用金庫本支店窓口

対象者：来店客355人(男性205人・女性150人)

調査要領：アンケート用紙に記述(無記名)

就業意識 に関する生活者からのコメント

- ◇有給休暇の取得を推進すると、店舗スタッフの数が減少し、少ない人数で仕事を回さなければならなくなり、従業員全体が疲弊してしまう。
- ◇仕事量が減っていない中で、残業禁止といわれても、持ち帰りの仕事が増えるだけ。(以上20代女性)
- ◇休みが増えて働きやすくなったが、給与に関しては下降するばかり。(20代男性)
- ◇従業員の担当業務が多岐に及び、週に一度の一斉退社日には無理がある。(30代男性)
- ◇生産性を向上させるITツール等の導入をしない限り、働き方改革は進展しないと思う。
- ◇昨年までは有給休暇などは取りづらかったが、今は取得しやすくなった。(以上40代女性)
- ◇有給休暇の取得を高めるために、業務の少ない平

- 日に無理やり取得させられるので、取りたい時期に有給休暇を取れない。
- ◇IT化・機械化が進み、労働環境は改善された。もはや人間は作業部門では不要。(以上40代男性)
- ◇働き方改革により、残業が減少し、時間的な余裕ができたとしても、時間外手当が減少するので、生活は苦しくなるばかり。
- ◇良くはなったが、全てのやりとりをPCでまとめるため、問い合わせの時間がとられ、その件で同僚とぎくしゃくしている。(以上50代女性)
- ◇社員が増員され、職場環境は良くなっている。(60代以上女性)
- ◇人件費削減による影響があり、また労働加重は増加している。(60代以上男性)

北信濃 江戸時代の風景

(59) 城山

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



城山とは

本年度は、弘化4年(1847)に起こった善光寺地震を記録した『地震後世俗語之種』(国立国会図書館本)の挿絵を用いています。今回は善光寺の東方500メートルほどにある城山です。南北に連なる丘陵で、善光寺本堂のある西側から見ると高さ15メートルほどの丘なのですが、東側の平野部から見ると高さ50メートルほどもある小山になっています。

城山のことを『地震後世俗語之種』は「仮寝が岡」と呼んでいます。人が横たわって仮寝(うたた寝)をする姿に似ているからです。南が頭、北が足ということになります。「蒲団着て寝たる姿や東山」(嵐雪)とうたわれた京都の東山を思い起こさせます。

図を読む

下の図は、城山を南から見た情景です。中央の

大きな料亭は、現在の城山公民館付近です。左上の小高い場所にある堂は毘沙門堂で、現在の健御名方富命彦神別神社(水内大社・県社)の位置です。カラーの図版でないと分かりにくいのですが、この城山の図には満開の桜の木がいたるところに描かれています。現在の城山は花見の名所で、花の時期には花見小屋(花見茶屋)が開店することで知られていますが、江戸時代も桜の名所だったのです。

料亭内で楽しむ人々や、屋外では三味線に合わせて扇をかざして舞う人などが描かれ、城山が歓楽の場であったことが分かります。また左の石段の上にも下にも、それぞれ子供を連れた人が描かれていて、城山は子供連れで訪れることができる場所であったことも見て取れます。こうした城山のあり方は、動物園や少年科学センターなど子供向けの施設となって、現在まで引き継がれている

仮寝が岡(城山)の図(国立国会図書館蔵『地震後世俗語之種』より)



のでしょう。

毘沙門堂

城山は横山城址と呼ばれる古城跡で、川中島の戦いでは上杉謙信が陣を置いたことがあります。そのためこの毘沙門堂は、ここに陣を置いた謙信が陣中に毘沙門天をまつたことに始まるとの説があります。もっとも『地震後世俗語之種』によれば、毘沙門堂に安置されていた毘沙門天像は、昔この近くの農夫が畑から掘り出したものと伝えられていました。本尊は秘仏で、普段は前立の毘沙門天像を拜んでいました。



城山の健御名方富命彦神別神社

図では石段上の毘沙門堂の左側に、石碑とともに小さな堂が描かれています。これは愛染明王をまつる愛染堂で、染物業者・呉服業者などの信仰を集めていました。毘沙門堂が神社に置き換わった現在は、千幡社となって同じ位置にまつられています。

毘沙門堂の右側にはいくつも屋根が描かれていて、大きな建物があるらしいことが分かります。これは大勧進の別荘で、文人たちの会合などに用いられました。文化13年(1816)4月15日に行われた書画会には、小林一茶が訪れた記録が残っています。

信中第一楼

図の中心に描かれているのは、2階建ての大きな料亭です。眺望を売り物にしている、2階の右端には眺望を楽しむ2人の女性が描かれています。また中央左にもやはり眺望を楽しむ男女がいて、男が棒のようなものを差し出しているように見えますが、これは望遠鏡でしょう。明治11年(1878)に出版された『善光寺繁昌記』の口絵にもこの料亭が描かれていて、やはり2階から望遠鏡をのぞく男が描かれています。

『善光寺繁昌記』によれば、この料亭は春夏秋冬

いずれの景色もよいことから「四宜楼^{しぎろう}」という額を掲げていました。江戸の漢詩人大窪詩仏(1767～1837)はここを訪れ、「信中第一楼」と命名しました。信州で第一の楼という意味です。

明治以降の城山

明治11年(1878)に明治天皇の巡幸があり、大勧進別荘の跡に仮宮が建設されました。明治天皇は9月9日午後ここに入り、眺望を楽しまれて、「佳き眺めや」と仰せになったので、この仮宮は佳郷館と名付けられました。しかし明治24年(1891)の大火で焼失し、再建されることはありませんでした。

善光寺本堂の背後(大本願廟所の位置)には歳神^{としがみ}堂がありました。神仏分離が明治政府の方針でしたから、明治12年に毘沙門堂の跡にこの神をお移しし、神社を建ててまつりました。平安時代の『延喜式』に見える健御名方富命彦神別神社はこの神社のことだとして、それを社号としました。

8月号は「善光寺の背後」の予定です。

この頁は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫について](#)

●いつまで仕事をするのが望ましいか

「65歳」26% 「60歳」18% 「70歳」10% 「年金受給年齢」8% 「わからない」17%

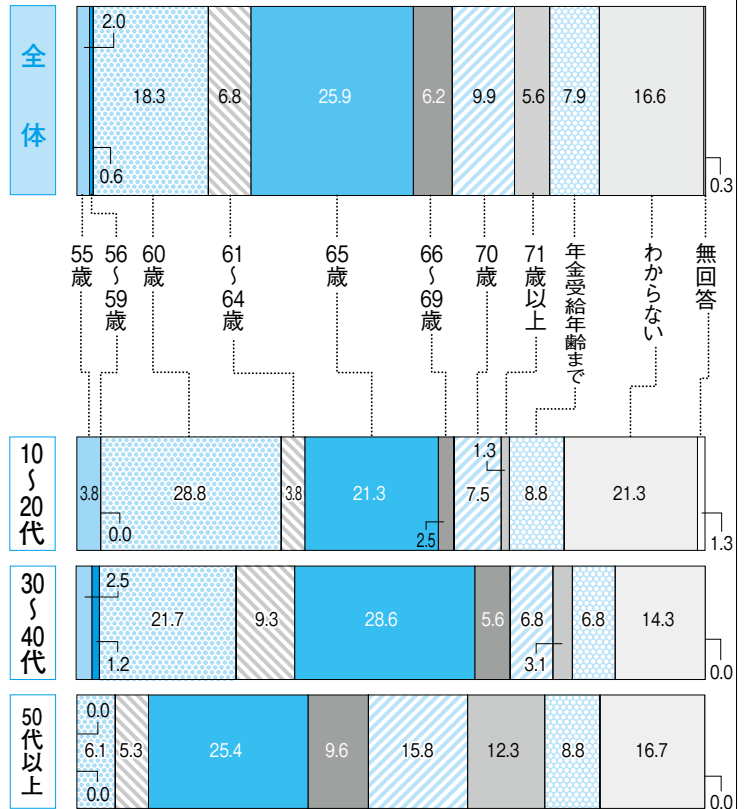
「『いつまで仕事をするのが望ましい』
と考えるか」を聞きしました。

1位は「65歳」で26%、2位は「60歳」
で18%、3位は「70歳」で10%、4位は
「年金受給年齢まで」で8%、5位は61
～64歳で7%となりました。「わからない」
は17%にのぼります。

世代別で見ると、10～20代は「60歳」
が29%、30～40代は「65歳」が29%、50
代以上は「65歳」が25%と、それぞれ最も
高い数値となりました。男女別で見ると、
女性は「60歳」が24%、「わからない」が
23%。男性は女性より5歳も高い65歳が
32%と最も多い回答となっています。

(当金庫・2019年6月調査)

●「いつまで仕事をする」のが望ましいか(%)



●みなさまの経営相談のご案内 [8月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
8月 2日 金	若槻支店 (城北支店)	東長野支店 (柳原支店)	8月 21日 水	石堂支店 (伊勢宮支店)	七瀬支店 (南支店)
6日 火	稲荷山支店 (屋代支店)	上山田支店 (戸倉支店・坂城支店)	23日 金	篠ノ井支店 (川柳支店)	松代支店 (更北支店)
7日 水	長池支店 (大豆島支店)		26日 月	大門町支店 (桜枝町支店)	飯綱支店
8日 木	須坂支店 (墨坂支店・太子町支店)	豊野支店	28日 水	本店営業部	古里支店 (吉田支店)
9日 金	中野支店 (小布施支店)	山ノ内支店 (飯山支店)	29日 木	本 部	
19日 月	権堂支店 (善光寺下支店)	川中島支店 (川中島駅前支店)	30日 金	本 部	

●8月の「しんきん事業相談会」は8月7日(水)です



長野信用金庫 総合企画部

本店 〒380-8686 長野市居町 133-1 TEL 026-228-0221(代)

長野信用金庫 URL <http://www.nagano-shinkin.jp/>

